

小学校教科等研修講座(社会科)

教科等指導員 鈴原小学校 教諭 宗野 伸哉

担当指導主事：上野 みづほ

キーワード：授業、子どもの活動、資料活用、小中連携

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
12月10日（木）	大和大学 非常勤講師 間森 誉司 氏 授業者：有岡小学校 石見 美穂 教諭	有岡小学校 研究授業・事後研究	「日本の工業の特色（第5学年）」
1月28日（木）	有岡小学校 又吉 全道 教諭	総合教育センター 2階講座室 講義	「資料を活用して授業を深める社会科学習」

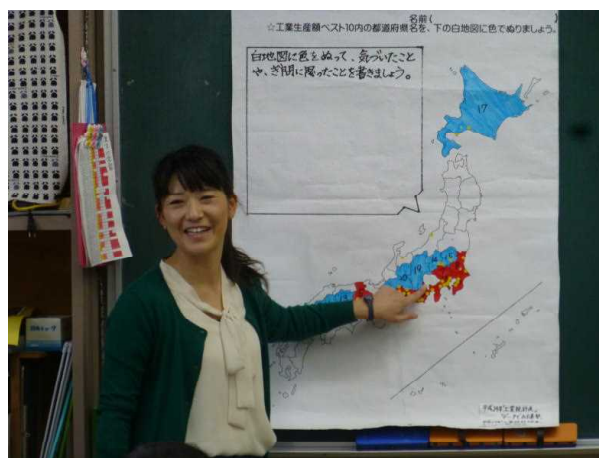
2 主な内容

(1) 「日本の工業の特色（第5学年）」

今回の授業では、「工業の盛んな地域の立地理由」を扱った。まず、「都道府県別工業生産額」のグラフを生産額の多い順に白地図に色を塗る作業をとおして、関東地方南部から九州地方北部にかけて工業が盛んな地域が集まっていることを読み取らせた。次に、工業が発達した地域が帯（ベルト）のように連なっていることから、その地域を太平洋ベルトとよぶことを確認した。そして「なぜ、太平洋ベルトに工業が盛んな地域が集まっているのだろうか」という本時の目標につながる学習課題を提示した。児童からは、「人口が多い大都市に近い」「海沿いで港があり船で輸出入できる」などの意見が出た。その後、授業者が予想を確かめる資料として「都道府県別人口」や「重要港湾位置図」を提示した。授業のまとめとして、主に太平洋ベルトの海沿いに工業地帯や工業地域が集まっており、その理由は①原料や製品の輸送に便利②埋め立てにより広い土地を得やすい③働く人や買う人が多い大都市に近い、ということをおさえた。

事後研究協議では、「学習課題を達成させるための資料は適切であったか。」を主なテーマとして協議した。提示した資料は児童が事実を読み取りやすいように授業者が加工していたが、資料の数が多かったのではないかという意見や、二次元の資料ではイメージがしにくかったのではないかという意見が出た。一方で、予想を検証するためにどのような資料が必要なのかを児童に考えさせたことは良かったという意見もあり、学習課題を達成するための適切な資料の数や提示方法について活発に討議することができた。

講師の模擬授業では、疑似体験により理解を図ることや実物教材を用いて関心を高めることを中心とした学習方法の大切さを考えることができた。



(2) 「資料を活用して授業を深める社会科学習」



社会科学習を行う際に必要不可欠である資料の内容や提示方法、活用方法について、第5学年の「日本の工業の特色」、第3学年の「昔の道具と人びとの暮らし」の授業実践をとおしてお話いただいた。まず、資料には多種多様な事実が含まれていることが多いため、児童が読み取りやすい（学ばせたいことが明確にわかる）ように資料を加工する必要があることを学んだ。次に、第3学年の「昔の道具と人びとの暮らし」で用いた洗濯板の授業実践を例に、洗濯板の洗濯物をこする部分だけを隠し「この隠してある部分はどのような形になっているかを考えよう」と児童に発問したことにより、思考を深めさせることができたことを紹介していただいた。最後に、二つの資料を対比して読み取らせたり、実物教材であれば実際に触らせたり使用させたりすることの大切さを学んだ。また、児童の意欲を引き出しつつ、地図帳を活用して資料から必要な情報を読み取っていく「地名探し」の学習も紹介していただいた。さらに、質疑応答では、小中で連携した指導を行っていく必要性も考えることができた。

と児童に発問したことにより、思考を深めさせることができたことを紹介していただいた。最後に、二つの資料を対比して読み取らせたり、実物教材であれば実際に触らせたり使用させたりすることの大切さを学んだ。また、児童の意欲を引き出しつつ、地図帳を活用して資料から必要な情報を読み取っていく「地名探し」の学習も紹介していただいた。さらに、質疑応答では、小中で連携した指導を行っていく必要性も考えることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 授業における資料の提示方法・活用方法・加工の必要性を考えることができた。
- ② 実物教材の作成方法を知ることができた。
- ③ 体験活動の有効性を疑似体験をとおして理解することができた。
- ④ 資料活用の仕方や授業構成について研修を深めることができた。

(2) 課題

- ① 研究授業を継続して実施することで研修を深め、教員の指導力向上を図る必要がある。
- ② 今後も指導内容や指導方法等についての情報交換をするなどして、より一層の小中連携を図っていく必要がある。